日本鉄鋼協会記事

理事会

第2回理事会　開催日：4月16日．出席者：藤本会長他37名．

会議事項

（1）デ・カ・チェルノフ100年記念シンポジウム参加の件

不破祐東北大学工学部教授を団長とする代表団を派遣することを決定した．

（2）UNIDO（国連工業開発機構）の鉄鋼業に関する第2回地域間シンポジウム参加の件

飯森正康氏（石川島播磨重工業）他4名が参加することとなつた旨報告．

（3）編集委員長委嘱の件

荒木透君（編集担当理事）に編集委員長を委嘱することを決定した．

（4）庶務分科会主査，欧文会誌分科会主査を委嘱することを決定した．

（5）特別資金運営委員会委員委嘱の件

芝崎，八木各副会長，三島，山岡各前会長，荒木編集吉崎企画，三本木研究各委員長，河西会計主査，石渡理事，田畑専務理事に特別資金運営委員会委員を委嘱することを決定した．

（6）原子炉熱利用について

湯川前会長，Dr. Schenk が先般来日の際原子炉の冷却に He を使う場合1200°C位で出てくるが，この熱を製鉄に利用することを研究すべきことを講演されたと聞く．近い将来 I.I.S.I. でこの問題が提出されぬとも限らぬ．ただちに実現は困難と思われるが，わが国として検討したらどうかとの提案があり，研究委員会で取り上げることになつた．

企画委員会

第2回委員会　開催日：4月12日．出席者：吉崎委員長，他15名．

会議事項

（1）外国会員会費について

欧文会誌分科会において正会員会費と比較して高すぎ再検討すべきという意見が起こつている．現状では正会員の英文誌に対する価格がサービスしすぎであり部数を出すほど赤字の状態で値下げは妥当でない．両誌購読の外国会費 20 ドルは高すぎるので，15，16ドルが妥当であろう．両会員会費の事務局案を作成し，さらに検討することになつた．

（2）第53回通常総会第75回講演大会について

理事が会長，副会長を互選する時，別室で行なうのは総会場の座が白ける感じで不都合である．今後は総会会場の理事席で投票する形式をとつたらよいと思う．また新しい試みであるスライドは好評であつたが，不慣れのため早く消しすぎるきらいがあつたのは残念であつた．

研究委員会

第2回委員会　開催日：4月16日．出席者：三本木委員長，他20名．

1．報告事項

1）国際会議技術委よりその後テーマの決定したⅢ Ⅶ部門について報告があつた．

2．審議事項

1）昭和44年度科学技術庁委託研究テーマについて．

委員長より基礎問題小委員会でまとめた研究計画の概要について説明があり，大筋は承認された．テーマは「プロセス工学の基礎研究」で3年計画である．

2）基礎共研部会，分科会の運営について．

事務局より「部会の設立，廃止に関する基準」「新部会の設置案」が提出され審議の結果多少の修正を行なつて基礎共研運営委員会に提出することになつた．

3）科学研究費の配分について．

前回討議後の経過につき佐野前会長より詳細な説明があり，文部省が直接配分委員を指名する模様なので金属関係8学会で協議し委員を推薦することになつたとの報告があつた．

また三本木委員長より4月10日に行なわれた学会と学術会議の懇談会の状況が報告された．

3．その他

1）「国として推進すべき研究に関する国公立試験研究機関，大学，産業界などの連携方策に関する意見」について

科学技術会議より内閣総理大臣に提出された上記意見の内容につき説明があつた．

2）大学院問題について

学術会議の学術体制委員会が取り扱つている大学院問題につき，佐野前会長より説明があつた．

編集委員会

第2回運営委員会　開催日：5月14日．出席者：荒木委員長，他12名．

1．国際会議における発表論文について

シンポジウムの Proceedings などで公にならなかつた論文は本会会誌に投稿を勧誘することになつた．

2．造船学会賞候補論文推薦について

編集委員に推薦を依頼しその結果に基づいて検討することとなつた．

3．「鉄鋼の製造過程の理論」について

丸善よりソ連の「鉄鋼の製造法の理論」の翻訳出版の依頼があり，出版分科会で検討することとなつた．

第3回和文会誌分科会　開催日：5月10日．出席者：荒木主査他，14名．

1．第54年第8号は14論文が掲載決定し，第75回講演会討論会内容も併わせ掲載することに決定．

2. 原稿分類について

欧文会誌分科会において，Trans.の "Abstract" の分類区分を検討してはとの意見が出，和文会誌でも検討してほしいとのことで，討議した結果，次のようになつた．

(1) 欧文，和文両分科会より委員が出て共同で検討する．(本分科会よりは田中，吉谷両委員)

(2) 寄稿規程改正の折から現審査用紙では不都合をきたすので，海外の諸雑誌を参考に分類の仕方，審査の方法などを田中，吉谷両委員が併わせ検討することとなつた．

3. 「鉄と鋼」の目次にドイツ語，フランス語をつけてはどうかとの要望があり検討した結果，現在では英語だけでも十分ではあるが，今後更に検討していくこととなつた．

第3回欧文会誌分科会 開催日: 5月13日．出席者: 橋口主査，他15名．

1. 9件の論文について審査報告がなされた．

2. 19件の論文の投稿を勧誘することになつた．

3. Transactions ISIJ には，学術的な論文が多いが，report や technical features として現場の技術的な内容のものや新工場，新機械の紹介記事も掲載したいので，各社に執筆を勧誘したらどうかという意見が出された．

第2回出版分科会 開催日: 5月22日．出席者: 佐藤主査，他12名．

1. 「鉄鋼の製造過程の理論」出版企画について丸善より上記翻訳書(ソ連)の出版要望があり，検討．書名は「鋼精錬過程の理論」となり来年3月末までに翻訳，同9月出版の予定となつた．

2. 「圧延理論」出版企画について

出版することに決定．編集運営委員会に諮ることとなつた．

3. 「鉄鋼便覧」，「鉄鋼製造法」出版企画について

出版の時期は「鉄鋼製造法」を先にし，その企画が整つた頃(約1年後)「鉄鋼便覧」にとりかかることとし，この2つの性格をはつきり区別するために内容，対象者を下記のように決めた．

製造法…高専卒程度の人が理解できるもので現場の指導書となるより生のデータをとり入れ，現在の標準的技術を詳しく指導するようなもの．編集委員会は出版分科会の企画のもとに共同研究会が主体となつてはどうか．

便覧…「製造法」よりもつとレベルの高い現場のエンジニアを対象とする．

「製造法」の編集委員会については次回までに構成案作成のこととなつた．

資料委員会

第2回委員会 開催日: 5月10日．出席者: 草川委員長，他13名．

1. 鉄鋼協会資料室についてのアンケートを春季講演大会会場で配布したが，更にアンケートを配布し，次回までにその結果について検討する．なおアンケート回答集計結果から国際会議資料などの所在調査収集についての要望が多かつた．

2. 「鉄と鋼」索引カードの件

ドクメンテーション協会に依頼中であつた「鉄と鋼」論文にUDC分類をつけることについてはドクメンテーション協会が承諾した．なお件数は100件/月という割合で行なうという意向であるが，過去3カ年分を1年間でやつてもらうよう要望する．

3. 委員増員の件

大学および研究所側のいわゆる利用者の立場にある人を選任する．

共同研究会

製鋼部会

第39回部会 開催日: 4月15, 16日．出席者: 池田部会長，他131名．

日本鋼管(株)京浜製鉄所において，2日間にわたつて研究発表が行なわれた．2日目の午後は京浜製鉄所(川崎地区・鶴見地区)の見学を行なつた．

研究発表は，製鋼設備に関する問題3件，製鋼に関する計測技術の問題1件，製鋼原料と操業に関する問題11件，鋼塊の欠陥防止に関する問題8件，脱ガスおよび連続鋳造などの新技術に関する研究2件，計25件の論文の発表が行なわれた．

特殊鋼部会

第34回部会 開催日: 3月7, 8日．出席者: 中野部会長，他97名．

会議事項

日立金属安来工場において開催された．

1. 「ヤスキ海綿鉄とこれを用いた特殊鋼の特性」について日立金属研究所，中村信夫氏より特別講演があり山陰砂鉄の採鉱より海綿鉄を使用し，特殊鋼材を製造するまでの原料，製鋼，圧延，熱処理の各技術ならびに海綿鉄を用いた特殊鋼の特性について説明された後，活発な討論が行なわれた．

2. 共通テーマ「特殊鋼の品質と製造技術に関する研究」，「品質水準の現状と問題点」および自由テーマについて各社より報告があり，活発な討議が行なわれた．この後，安来工場の見学を行ない，盛会裡に終了した．

計測部会

第39回部会 開催日: 2月28, 29日．出席者: 池上部会長，他74名．

会議事項

例年どおり春の部会は神田学士会館にて2日間にわたつて開催された．自由議題は前回どおり製銑関係の計測のほか8議題が用意された．共通議題としては，今回は各社記録計稼動実績調査と保守基準の決定の2テーマが準備されたが，特に記録計の稼動調査報告では，記録計の性能向上に対してメーカー側からも有益な意見が出され活発な討議がなされた．

品質管理部会

第19回部会 開催日: 4月18, 19日．出席者: 辻畑部会長，他73名．

会議事項

1. QCとコンピューター

工程管理システムの機械化，データ収集および解析の機械化，コンピューターによる重回帰分析の新しいプログラムなどにつき4件の研究発表が行なわれた．

2. 標準化と品質設計

品質保証体制について3件の研究発表が行なわれた．

3. 手法事例

職場会議，自主サークル活動，ZD運動について3件の発表が行なわれた．

4. 東洋鋼鈑(株)における品質管理状況

標 準 化 委 員 会

JIS 原案作成分科会

第2回JISみがき棒鋼原案分科会　開催日: 3月8日．出席者: 中村主査，他26名．

会議事項

前回の分科会の決定にもとづき，42年の磨棒鋼鋼種別生産実績について，日本磨棒鋼工業組合より，調査結果が説明された．次に，電機工業会，自動車工業会，自動車部品工業会，織機工業会，工作機械工業会，などのユーザー側から意見の発表が行なわれた．結論として，

(1)鋼種を何種類とするか，(2)機械的性質をどう決めるか．の2点について各需要業界から磨棒鋼工業組合に意見を提出しこれを検討の上，次回に提案審議することになつた．

第4回JISエリクセン試験方法および曲げ試験原案分科会　開催日: 4月15日．出席者: 吉沢主査，他22名．

会議事項

エリクセン試験におよぼす潤滑剤（グラファイトグリースとグリセリン），試験方法（JIS 方式と ISO 方式）および温度の影響について各社の試験結果が報告された．内容を要約すると

1. ISO 方式のほうが低い値となる．
2. ワセリンよりグラファイトグリースのほうが高い値となる．
3. グラファイトグリースのほうが温度の影響が少ない．

今後としては

1. 潤滑剤はグラファイトグリースがよい．
2. 試験方法は，徐々にISO方式に切り換えていく．

クリープ委員会

技 術 部 会

第2回クリープ試験分科会　開催日: 5月7日．出席者: 平主査，他36名．

会議事項

1. 第2回高温引張り共通試験について

各種鋼材の高温引張り特性の温度および，ひずみ速度依存性の定性的把握を目的とし共通実験を実施することになり実施方案を審議した．

2. スペシメンバンク確認試験について

スペシメンバンク用材料の確認試験の試験条件を決めるための予備実験結果の報告があり試験条件を決定した．

3. クリープデータシート作成について

クリープのデータシート作成を行なうためデータの収集の基準となるスペックの作成にとりかかることになつた．

鉄鋼基礎共同研究会

溶 鋼 溶 滓 部 会

第7回運営委員会　開催日: 4月6日．出席者: 斉藤部会長，他17名．

1. 昭和43年度部会予算について

今年度部会運営予算につき事務局より説明があり了承された．

2. 分科会報告

第1，2，3分科会の報告が主査より行なわれた．

3. 昭和44年度研究担当ブロックについて

北海道ブロック，九州ブロックの双方より研究計画書を提出してもらい鉄鋼協会事務局と協議の上，いずれか一方に決定することになつた．

4. 第4回シンポジウムについて

次のように決定した．

1) 日時　昭和43年9月24日

2) テーマおよび講師

i) ルツボと溶鉄間の反応
　　名工試　日々野氏

ii) 粘性，密度に関するレビューおよびオリジナル研究結果
　　阪　大　足立委員

iii) 蒸気圧のレビュー
　　北　大　丹羽委員
　　早　大　加藤教授

微 量 元 素 部 会

昭和43年度第1回運営委員会　開催日: 2月3日．出席者: 今井部会長，他6名．

微量元素部会の昭和43年度の活動方針が審議され下記のごとく決定した．

1. 部会メンバー

公募による 22 名

2. 会議予定

昭和43年6月　第1回バナジウム分科会
昭和43年12月　第2回バナジウム分科会
昭和44年5月　微量元素部会

3. 部会運営幹事会メンバー

現状のメンバーのまま変更しないことになつた．

第1回バナジウム分科会　開催日: 4月10日．出席者: 今井部会長，的場主査，他20名．

会議事項

1. 分科会発足にあたつての部会長，主査の挨拶
2. 研究指導教授の研究計画の説明

今井(東北大)，足立(大阪大)，美馬(大阪大)，長谷川(早大)，荒木(東大)の5名の指導教授より「鋼中Vの影響に関する研究」の研究計画が説明された．

3. バナジウム分科会活動方針

共同研究テーマ「鋼中Vに関する研究」を昭和44年10月までに完了する．その間に中間発表を2回，最終発表を1回行なう．

4. 特別講演

「鋼中のVに関する研究」なるテーマで，八幡製鉄東京研究所の谷野満氏が講演を行なつた．

転位論グループ

第9回会合　開催日：4月22日：出席者：橋口世話人他5名．

会議事項

1. 各委員の研究発表

京大高村委員より5月にソ連で開催されるデ・カ・チェルノフ100年記念シンポジウムに発表予定の論文 "Lattice Defects in Deformed Low Carbon Steels and the Annealing Stage" の説明があり，次いでその内容につき討論が行なわれた．

純鉄グループ

第4回会合　開催日：3月5日．出席者：草川世話人他25名．

会議事項

1. 金属学会専務理事，長崎氏が「純鉄に関する疑問」というテーマについて講演を行ない活発な討論が行なわれた．

2. 北海道大学，竹山教授が「低炭素鋼の諸問題」について講演を行ない，活発な討論が行なわれた．

3. 九州大学，北島教授より「高純度鉄単結晶の製作とその2，3の性質」について講演が行なわれ，活発な討議があつた．

4. 純鉄グループ43年度共同研究に関する各委員のアンケート結果について，担当者から研究予定の説明があつた．世話人会で共同研究の具体案を作成し，次回までに決定する．

新入会員氏名

(昭和43年4月1日～30日)

維持会員

(株)東京計器製造所

正会員

岡崎　睦	八幡製鉄(株)	八幡
菊地　勝美	〃	〃
高橋　強	〃	〃
高橋　久夫	〃	〃
中島　松喜	〃	〃
挟間　繁宏	〃	〃
飛田　洋史	〃	〃
稽崎　誠治	〃	堺
大窪　利謙	住友金属工業(株)	鋼管
楠本　成明	〃	〃
小林　純夫	〃	中技研
別所　清	〃	〃
小柳　寛記	〃	小倉
稲岡　政延	富士製鉄(株)	広畑
土岐　寛明	〃	〃
神尾　弘	〃	中研
花本　俊作	(株)神戸製鋼所	高砂
和田　武憲	〃	尼崎
和田　俊	〃	藤沢
山本　益良	日本特殊鋼(株)	本社
渡辺　博	〃	〃
中川　洋一	日新製鋼(株)	広島
谷本　久美	川崎製鉄(株)	水島
鈴木　千秋	山陽特殊製鋼(株)	
小野　専一	トピー工業(株)	神奈川
大倉　幸雄	大同製鋼(株)	
大久保　透	金属材料技術研究所	
花岡　哲雄	中央電気工業(株)	
松尾　忠	住鉱アイ・エス・ピー(株)	
堀池　勝	(株)鉄原	
斉藤　俊夫	兵庫県機械金属工業指導所	
江島　辰彦	東北大学	
沢田　昇竜	〃	
伊藤　邦夫	東京大学	
岡本　賢	〃生産技術研究所	

学生会員

飯野　吉保	早稲田大学理工学部	
清水　正啓	〃	
鈴木　道郎	〃	
関　裕司	〃	
高橋　徹	〃	
武部　貴文	〃	
千野　修世	〃	
富樫　泰博	〃	
永原　康平	〃	
長谷川一郎	〃	
藤野　匡司	〃	
松岡　建	〃	
三沢　一彦	〃	
池本　和夫	大阪府立大学工学部	
梅根　昭	〃	
榎本　和彦	〃	
小川　進吾	〃	
大崎　悟	〃	
奥宮　正司	〃	
九鬼　泰毅	〃	
小菅　源治	〃	
中川　健朗	〃	
嶋橋　安広	大阪府立大学大学院	
富田　恵之	〃	
浅井　斉	名古屋大学工学部	
金久保　勉	〃	
神森　章光	〃	
白井　久雄	〃	
永井宣太郎	〃	
三沢　啓典	〃	
安田　金秋	〃	
加藤　猛彦	名古屋大学大学院	
倉田　雅之	〃	
三輪　守	〃	
木村　敏郎	東京大学大学院	
菊池　英雄	〃	
林　央	〃	
全　明	東京大学工学部	
石井　友之	東京工業大学大学院	
高田　正和	〃	
花木　美恵	九州大学大学院	
札場　和彦	〃	
石川　遼平	東北大学大学院	
水谷　泰政	大阪大学大学院	
菅原　克俊	室蘭工業大学工学部	
大谷　啓一	東京理科大学理学部	
本田　紘一	東京都立大学理学部	
松崎　幹康	千葉工業短期大学	

外国会員

Division of Materials Application	(England)
Engineering Societies Library	(U.S.A.)
Serials Department Library	(U.S.A.)
Mr. Frank A. Berczynski	(U.S.A.)